

## 令和7年度 第2回みんなで支える森林づくり長野地域会議 意見等概要

(■説明事項 ○意見等) (10:00~16:10)

開会：副局長あいさつ等

■各事業及び熊対策について改善点等ありましたら御意見をいただきたい。

### (1) 開かれた里山の承認について ( ) は里山整備利用地域の支援事業活用期間

事務局：管内の里山整備の概要を説明後、承認申請のあった地域(4地区)から概要説明  
(別途資料等により説明)

#### ■須坂市井上城址さくらの会 (R2~R4)

地域森林15haを数百本ある桜の保全中心に活動している。近年は獣害も増加してきており荒廃が進んできてしまったため、開かれた里山として地元中学校等と協力して再整備し地域で保全していきたい。

#### ■信級きぼうの森 (R4~R6)

地域の人口は減少しているが地域の有志で地域の森林を保全していきたい。長者山周辺の森林を活用し、登山道の整備や森林整備を実施予定。Iターンの住民のみみられるので次世代へ地域の里山を引き継いでいきたい。

○この地域では炭焼きが盛んだった。炭焼きと関係した活動も良いので検討を。

○活動内容のツリークライミング体験の講師はどうしているのか。

→外部の有資格者に依頼している

#### ■七二会森林クラブ (R5~R7)

地域の森林は高齢化しており、倒木等もみられる状況になったため、森林の更新を図り機能向上を図るため活動開始。伐採した木材は薪として活用している。

今後は、開かれた里山として薪ストーブ愛好家へのPRを予定。また地域の学校や団体と協力してシイタケ植菌活動及び森林内の福寿草群生地への竹チップを活用した歩道整備等を予定。

広葉樹の若返りでドングリが沢山実るようになればクマ対策につながると考える。

○薪ストーブの愛好家はこれから集うのか？

→既に供給している方を中心にそこから拡大することを考えている。

○ナラの更新は植樹も行う予定か？

→基本的には天然更新(萌芽更新)

○竹チップについては自治体の取組みなどに活用するために購入は可能か？

→機械の能力等もあり生産量に限界もあるのであらかじめ必要量がわかれば対応可能。

#### ■千曲市八幡地区里山整備委員会 (R5~R7)

千曲市聖湖周辺森林の猿ヶ番場峠というところが活動地区。ウォーキングマップが

整備されており里山整備利用として看板等整備してきた。更に整備が必要な場所があることから引き続き開かれた里山として整備を進め、併せて森林整備にも取り組みたい。地域の鉾山や昔の軍事施設などを紹介できるような歩道整備を検討中。

○鉾山など興味深い観光施設みたいに整備できるとよいですね。

→できる限り整備したいが今のところ施設で利益を得ることまでは難しそう。

●本日意見を伺った4件については、詳細確認した中で承認する方向になる。

整備により利用者が増加していくことが理想。そうでなくても取組が継続していくことが重要なので広報やPR方法検討していただき、市町村等とも協力して取り組んでほしい。

県としてもPRに協力したい。

→SNSについては若い中学生などと一緒を取組まれると効率的に行える

## (2) 森林づくり県民税活用事業について（市町村森林整備支援事業等）

・令和7年度の実施状況及び来年度計画について事業内容を市町村より説明

### ■長野市

観光地等の景観整備と緩衝帯整備を実施している。特に緩衝帯整備についてはクマ被害もでていることから追加実施しており個所数も多くなっている。

来年度についても引き続き同じ内容で予定しており、景観整備と緩衝帯について計画的に実施していく予定。

### ■須坂市

森林外の松くい虫被害対策と緩衝帯整備を実施。電気柵により対策をしているがそれに合わせての対策を実施している。

来年度も緩衝帯の要望がある地域の事業に取り組む予定。松くい虫対策については被害があり少しずつ対策をしている状況。

### ■千曲市

観光地の景観整備を2箇所で行っている。

来年度については観光地の眺望確保とクマ対策の緩衝帯整備の予定。

### ■坂城町

松くい虫の被害木の利活用事業を実施。薬剤処理ができない古い被害材を中心に搬出しチップ化してバイオマス燃料として利活用している。

来年度以降も同数量程度の事業実施を予定している。

### ■高山村

公園の松くい虫被害木処理を実施している。また村内に電気柵が39kmあり、その周辺の緩衝帯整備を実施。

来年度はこれまでの事業に加え、観光地の景観整備を実施予定。

### ■信濃町

今年度は事業実施なし。

来年度はナラ枯れ対策としてライフラインもしくは観光地の景観整備について検討し

ている。どの事業にしても所有者が県外者多く承諾に苦労しており思うように計画できない状況。

#### ■小川村

ライフラインの保全対策として電線等の近くで倒木の恐れのあるところを中心に実施  
電力会社と連絡調整して対応できそうにないところは当事業で実施

#### ■飯綱町（事務局）

今年度は観光地等の景観整備として事業実施

来年度についてはナラ枯れ対策もありライフラインの保全と観光地等の景観整備を計画している

○枯損木があっても学校等はあまり気づかないところがあるので市町村としても支援してあげてほしい。

○ナラ枯れについては材積がつかみにくく、求積に苦労する。何か良い方法があれば参考にさせていただきたい。

#### ■事務局

今年度はクマの影響もあり、途中で補助額増額となった。来年度事業については市町村の意向を把握するため、8年度以降の事業要望を聞かせていただいた。来年は事務を一部見直し予定との連絡もある。

### (3) 里山整備活動の状況について

#### ■七二会里山整備利用推進会議

竹林整備が中心の活動となっている。チップパーを活用して伐採した竹をチップ化して活用している。また、イベントとして竹ランタンづくりを行い、170名ほどに経験していただいた。

#### ■一重山みらい会議

伐採木を活用したベンチづくりのワークショップを実施。5団体で狼煙リレーを主催  
一重山の山城を紹介した冊子を作成し地域の学校等に配布し、里山のPRができた。登山道の整備については千曲市と協力して取り組めるようになり整備が進む見込みになった。地域会議での情報交換のおかげと思っている。

#### ■富が原里山整備利用推進委員会

森林セラピー、ホースロッジ等で活用できる歩道整備を整備。関係者と調整し一般参加型イベントも開催している。

○一重山みらい会議の取組みは中学生等と一緒にしているがどのようなつながりからそのような取組みになったか教えてほしい

→担任の先生がクラブ活動の一環で地域での歴史に関係した活動を探しており、地元で地域の人を通じて歴史関係の取組みとして紹介をされた。

- このような話を聞くと地域みなさんにそれぞれの活動を知っていただく事が重要。
- 七二会地区では竹の伐採等行っているが枯れた竹についてはどのようにしているか。破竹が枯れているところもあるので処分に苦労しているのでは。  
→今のところ何とか処分できている。

#### (4) 意見交換

##### ■情報提供（事務局）

###### ・森林祭について

来年度の春に信濃町で県植樹祭（長野地域森林祭）を予定している。県政 150 周年記念行事にも位置づけ予定。主伐再生林の推進と長野管内から生産される少花粉スギ苗木の出荷開始などの発信を含めて実施したい。

信濃町は町政 70 周年にもあたることから協力をお願いしているところ。

###### ・ツキノワグマ対策について

クマの出没については全国的に問題になっているところ。県内でも人身事故があり出没が問題になっているところ。対策会議等開催されているがその中でみなさまでも関係する部分について情報提供する。生息区域が市街地近くに広がってしまっている状況となっており、市町村と連携し出没時の対応を再確認していく。

里山整備に取り組むみなさんについてはまずは自分たちが被害に合うことが無いように注意していただきたい。県でも対策等考えていくので提案等あればご意見いただきたい。

##### ■情報提供（森林組合）

###### ・森林整備業務の状況について

病虫害対策等については、被害が広がり市町村では苦労しているが環境譲与税による市町村事業などの発注もあり組合の業務としては順調に実施できている。素材生産現場ではクマのとの遭遇などの話も聞いているが、保育や素材生産含め概ね順調に実施できている状況。

##### ■全体を通して

- チェンソー等の安全教育について、里山整備に従事するみなさんはどのようにしているか。

→林災防等に講師依頼し実施する場合がある。

- 伐木の講習については 3 日必要だが補助対象にできない。資格があれば雇用につながるので良いと思う。

→雇用者が教育環境を整備するべきものと理解してほしい。

- 有害鳥獣駆除に従事しているが近年は里山周辺のわなに雄グマがかかる事例が聞こえるので錯誤についても駆除できるとか、もしくは GPS を取り付けた放獣にするべきと思う。エサ不足もあるので奥山の人工林を伐採して広葉樹の植栽も検討すべき。

→捕獲については意見として伝達させていただく。奥山の森林整備については所有者の意向もあるが、施策として地形条件等による施業（ゾーニング）による森林づくりというものを推進しているところ。

○苗木については秋出荷が終わりつつあるところ。少なくとも 2 年は生産期間が必要な事から、需給調整実施している。造林補助について補助金が不足しているようなことも聞いており、生産した苗が余ることを心配している。

→苗木生産にかかる仕組み等について生産者の不安を伝えたい。

○主伐については国有林は計画的に取組まれているが、民有林については主伐後、再造林まで植えるまで時間が必要な場合もある。所有者の意識も主伐には向いていない。伐採業者によっては天然更新（植栽しないこと）も聞かれる。

植栽については低コスト造林にそれぞれ工夫して取り組んでいるようである。

→林務課としても再造林は推進していかなければならないと思うところ。

●来年度の地域会議についても 6 月頃までに実施したいと考えている。令和 7 年 3 月に信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例が制定された。林務課内でも職員の勉強会など開催しているところ。次回の会議ではその内容についてみなさまと意見交換できるようなことを検討しているので承知願いたい。主伐再造林を推進するにもスギ材の活用等重要になるので御理解と御協力をお願いしたい。

●本日は里山整備からクマの話まで意見交換いただいた。里山に人が入ることでクマとの生息区域にある程度線引きができる部分がある。市町村でも緩衝帯整備など取組んでいただいているが次にどうするかという課題も出てくると思われる。里山整備や利用についても関係してくるのでまたご意見等いただきたい。

#### (5) 現地視察（移動）

##### ・長野市松代 コンテナ苗生産施設

生産施設を見学し生産者から種子採取～管理～出荷までの方法について説明

裸苗→コンテナ苗の切り替え、苦勞している点や負担が減った点などについて説明

スギ、カラマツの種子を確認し播種の方法など確認

## 4 閉 会



会議の状況



コンテナ苗の説明